

1: 出席者

加藤^a・片山・大西^b・平林・大塚^c・吉田(ひ)^c、吉田(亨)^c、鈴木^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- 核データの科研費は不採択であった。(加藤)
- VBL の COE に吉田(亨) が着任した。(加藤)
- 4/1 より核反応データ研究開発センターが発足した。(加藤)
 - 原子力機構と連携大学院の協定が結ばれた。(加藤)
 - 理研と研究協力協定が結ばれた。(加藤)
- 5/29 7/1 に VBL の外国人招聘で、イタリアより Ciofi 氏が来日予定である。(加藤)
- 原子力人材育成プログラムにアプライした。(加藤)
- 辞書ワーキンググループ報告 (第 1-2 回)。詳細は別資料参照。(大塚)

3: 議論

- 核反応データベース研究開発センターの英文名をどのようにするか? (継続)
案 (括弧内の数字は投票数)
 1. Nuclear reaction data center (3)
 2. Japan center for particle reaction data (1)
 3. Japan nuclear reaction data center (2)
 4. Japan center for nuclear reaction data (0)
- 今年度の予定 (承認)
 1. NRDF-新規論文の採録 30 編を行う。
 2. NTX-WG -作業としては年次報告書の作成を当面の中心とする。
- NRDF 年次報告の発行スケジュールについて。(承認)
 - 5 月 18 日 : 原稿締め切り
 - 5 月 31 日 : レフェリーなど
 - 6 月 8 日 : 印刷開始
 - 6 月 18 日 : 製本開始
- センター発足の挨拶を助言委員に行う。(承認)
- 新規コードについては仮登録制度を採用してはどうか? (承認)
 - 1 年の仮登録期間を設け、期間が終わった後に検討を行う。
- 核データセンターにおける元素生成に関する評価活動について (承認)

- 昨年度の NRDF/A の成果
 - ◇ 中性子、捕獲反応について、断面積を実験データ (EXFOR)、評価済みライブラリより採録を行った。
 - ◇ 書誌情報についてのデータベースを作成した。
- 今年の作業としてはまず、宇宙の西村氏が作成した軽い核の主要な核反応率の一覧表との比較を行い、足りない反応について補完作業を行う。
- 新規コード (承認)
 - PS-CNTR (V 型 5 類) : Position sensitive counter
 - THTC-1 (H 型) : Scattering angle theta of emitted particle 1 in c.m. system
 - THTC-2 (H 型) : Scattering angle theta of emitted particle 2 in c.m. system
 - PB.(NO3)2 (V 型 8.3 類) : PbNO3
 - CA.CO3 (V 型 8.3 類) : CaCO3
 - BA.CO3 (V 型 8.3 類) : BaCO3
 - SN.O2 (V 型 8.3 類) : SnO2
 - RU.O2 (V 型 8.3 類) : RuO2
 - MO.O3 (V 型 8.3 類) : MoO3
- 新規コード (以下を仮コード (フラグを立て、1 年間様子を見る) として辞書に登録する。(承認)
 - (DELTA-)AZZ (H 型) : Error in Tensor analyzing power A(zz)
(Z はビームの進行方向の定義とする。) $A_{XX}+A_{YY}+A_{ZZ}=0$ の関係式があるため、通常 A_{XX} , A_{YY} は使われるが、 A_{ZZ} は使われない。今回の論文 (D2042) では、上記の式が正しく成り立っているかを調べるために測定されたものであり、汎用性があるコードではない。
 - INC-ENGY-LAB-MAX (H 型) : Maximum incident energy in lab. system
- 新規コード (以下は継続)
 - XSECTN-MIN (H 型) : Cross section (lower limit)

4: 次回

2007 年 5 月 28 日 18:30~